ほとけの混和会だより

平成二十三年五月
大愚庵
仏の混和会
第83号

平成二十三年度の課題は、「共に生きる」と定め、努めて参りたいと存じます。

この度の大震災で被災された、檀信徒各位様、並びに御親族の皆様には、謹みお見舞い申し上げます。

又、檀信徒各位様から頂いたお見舞いの、お電話等、心より御礼申し上げます。

幸いにして、東光院に於きましては、本堂の壁が多少崩れ落ちた事と、境内の石塔が倒れた程度で、大きな被害はありませんでした。

その倒壊した石塔も岩井植木様のご厚意により、全て修復して頂きました。

真に有り難い事と存じます。

それに比べ被災地の深刻な人々の様子を見ると、真に心が痛みます。

何か私にも手助け出来る事は無いものかと、色々思いを巡らすのですが、身を持って行動に移す事はなかなか難しく、何とも、もどかしい限りで御座います。

せめて、天台宗団の要請による支援募金だけでもと思い、本堂に募金箱を設置させて頂きましたところ、大勢の人々から沢山の浄財を賜りました。

お陰を持ちまして、皆様からお預かりした浄財、合計十五万円を天台宗を経由して、被災地に送金させて頂く事が出来ました。

ご協力、謹み御礼申し上げます。

荒　了寛　書

さて先日のテレビのニュースに、小中学生のお子さん達や、各地より集まったボランティアの人々が、おにぎりや新聞を配ったり、瓦礫をかたづける姿の映像が放映されて居ました。

つい先頃まで、「無縁社会の到来」などと警鐘が鳴らされていたのですが、たちどころに「有縁無縁」の支援の輪が全国に広がっておりました。

この大震災によって、尊い人命や財産を失いました。

しかし、私達は、人と人、共に助け合い、いたわり合う、生きる事の原点、この最も尊いものを学ばさせて頂いたように思われます。

小中学生や、ボランティアの人々には見返りを求める行為はありません、此の対価を求めない無心の善行、この行為を、私達は布施行と言い、仏道を精進する上で最も尊い修行の一つに定めております。

私達人類は、本能的に共に優しさを施し、共に生きる智恵を持っていました。又一人では生きて行かれない事も知っておりました。

しかし、世間の競争社会に於いては、他に勝ことのみを指導されるように成って行き、人間本来の、本能として持っていた、人々に優しさを施す事によって得られる、生きる事の喜びを忘れてしまったように思われます。

更に、私達は住まいが有って当たり前、電気が有って当たり前、食事が出来て当たり前、この当たり前の生活に麻痺してしまい、日頃の生活に、感謝の念を忘れ、不満を抱くように成って行きました。

そして、残念な事は、日頃の当たり前の生活の尊さや有り難みは、全て失って見ないと感じ得る事が出来ないという現実の姿でした。

私達人類は、我欲を振りかざし、より便利な生活を追いながら生きて来てしまいました。

今後、地球上の人類全てが、飽くなき欲望を振りがさし生きて行ったなら、原子力の発電所を何百機建設しても、己の心を満たすことは出来ずに、更なる災いが生じる事と思います。

この度、私達は最悪の事態を、学ぶことが出来ました。

この経験が無にならぬよう、生きる事の原点に立ち返り、少ない欲望の元に、大きな喜びが得られるよう、そして日頃のあたりまえの生活に感謝の念を抱き、又共に生きる環境が築けるよう、精進して参りたいものと存じます。

合掌

荒　了寛　書

4月3日お釈迦様の誕生会を致しました。

お釈迦様を、釈迦族の人だから、お釈迦様と言っておりますが、釈尊と言ったり、大自然の真理を悟られた人を仏陀と言う事から、釈尊を、仏陀と言ったりしております。

釈尊は、人々の老いの姿や、病の苦しみ、更に死の悲しみ等を実際に見て、又自ら悲しみや苦しみを経験されて、この上ない慈愛心を会得して行きました。

此の、己を忘れ他を思いやる慈愛心、この仏心を抱く人を、世間では仏様のような人と言い、知らず知らずの内に、敬い親しまれるように成って行きます。

実は、私達も少なからずも、この仏心を会得しないと生きて行かれないのです。

しかしこの仏心は容易に抱けるものでは有りません。

釈尊と同じく自ら苦しみや悲しみを経験されて、初めて他を思いやる真の仏心が抱けてくるのです。

お葬式は、死はつらく悲しいものなのですよと、先に行く人が、後に生きる私達に、たった一つしかない、己の命を持って、様々な導きを、示して下さる儀式なのです。

己の命が慈愛心に変えて末永く生かされるようにと、尊い経験をさせて下さっているのです。

私達も、様々な苦しみや悲しみを、仏様の導きと受け止めて、この経験を慈愛心に変えて尊い仏心が得られるよう精進して参りたいと存じます。

共生き（ともい）の集い

みんなで、ジャガ芋掘りを楽しんで、みましょう。

そして、だれかにおすそわけしてみましょう

私達は、1人では生きて行かれないから、己の優しさ（仏心）をみつけて、だれかに施してみましょう。
共に生かさせて頂く事の安心を、さがして見ましょう。
皆様の、ご参加お待ち申し上げます。

☆日時　平成23年6月26日（日曜）『雨天の時　7月3日（日曜）』
午前9時～10時頃までに、東光院にお出で下さい。

☆参加費はありません。参加希望者は、電話して頂くか、
同封の申込用紙に、住所、氏名、参加人数、電話番号を
明記して、6月20日までに、FAX、若しくは郵送でお願いします。

☆電話　※※※※※※※※　　FAX　※※※※※※※※※